

# KYUUKAI



## コロナ禍で3年 活動方法が変わった

経友会会長  
S49卒 海老沼 利光

コロナが国内で確認されて2023年1月で3年になりました。

この間、大学ではオンライン授業の採用や諸行事の中止があり、経友会の活動も制約を受けることになり、役員会、エビ会やエビ長会などの活動がオンラインでの活動となりました。

上の写真は、校友会館での12月11日の「オンライン+対面」での役員会の写真です。



### ■学生支援活動「エビ会」が7年目に突入！

経友会と学生が連携した活動「エビ会」は、2017年にスタートし今年で7年目を迎えました。この3年間、オンラインによる活動を余儀なくされました。

5期生エビ会（2021年度）では14回の活動のすべてをオンラインで行い、また、6期生エビ会（2022年度）も、11回の活動のすべてをオンラインで行いました。「オンラインでの初顔合せ」から、実際に対面できたのは2022年11月で1年7か月もの長い時間を経たからの「初対面」でした。オンライン画面だけでは身長や身体つきが判りません。「本当に会えるのだろうか」の不安が頭をよぎりました。廊下の向こうから次第に近づいてくる大

原君を見て「彼なのだろうか・・・？そうかなあ？」オンラインでは長年会つていながら、その時は「初めまして・・・」の挨拶となりました。オンライン初対面から1年7か月後の「初対面」の場面では「不思議な嬉しさ」ありました。

一度も対面で会ったことがないメンバーとのオンライン対面だけでは十分な意思疎通ができるのだからと心配が残ります。オンライン会議の利点を生かしつつ、コミュニケーション効率と情報伝達の工夫が課題だと思っています。

### ■2023年度の新任役員紹介

本年度より大久保寛基先生（デザインデータ科学科 2023年4月設置・横浜キャンパス）が経友会相談役に就任しました。

### ■「エビ長会」発足

歴代経工学生会長と知湊会会長などをメンバーとした若手OBの経友会活動「エビ長会」が発足しました。

#### 1期生（H31卒）

有馬秀太 経友会幹事・マレリー(株)  
上村俊晴 経友会幹事・日産自動車(株)  
大場章行 経友会幹事・富士電機(株)

#### 2期生（R2卒）

内藤天貴 経友会幹事・富士電機(株)

#### 3期生（R5院卒）

高野祐希 日本IBM(株)

#### 4期生（R4卒）

鈴木翔太 日産工機(株)

※学科名称変更に伴い、2021年に経工会から知湊会に名称変更しました。

#### 5期生（R5卒）

大原拓真・(株)大塚商店

#### 6期生

小笠原健太 R4年知湊会前会長

#### 7期生

菊池拓真 R5年知湊会会長

2022/12/17 エビ長会



## 知能情報工学科 1期生としての展望

知能情報工学科

4年 大原 拓真

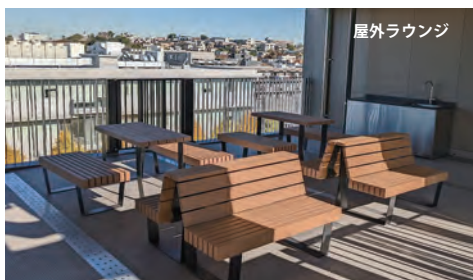


2019年4月、私たちは1期生として本学科に入学し、ヒトが持つ知能、企業が持つ組織知能、人工知能など多様な知能がある中で、これらをどのように組み合わせれば、企業活動や社会活動に対して価値を生み出すことができるのか、その方法論を学んできました。

ところで、振り返ってみると私たちのキャンパスライフは波瀾万丈なものでした。新型コロナウイルス感染拡大に伴いキャンパスライフもままならず、人との接し方、情報の受け取り方・伝え方、扱うモノの変化など、環境の変化に戸惑いを感じざるを得ませんでした。しかし、私たちはこの変化を経て、オンラインとオフラインをうまく活用する術はないかを考え、習得することができました。この一連のプロセスはまさに学科で学んでいる「ヒト・モノ・情報を如何に活用するか」の実践の場となりました。

2023年5月より、新型コロナウイルスの感染症法上の分類が5類へと移行します。社会や企業の活動は以前までの対面中心の形に戻るのではなく、対面とオンラインを組み合わせる形になります。そこで求められるのは「対面とオンラインをうまく活用して最大の価値を見出すこと」だと考えています。波瀾万丈なキャンパスライフを振り返ってきた私たち1期生は、この社会のニーズに対して即戦力になれると信じています。





屋外ラウンジ



左・解体中の旧10号館 右・新10号館



廊下から見る研究室 反対側まで見通せませす



ラウンジ 5階



外廊下



研究室内部



ラウンジ 4階

新10号館のエレベーターホールはラウンジになっており、5階は卓球台、4階は小上がり、3階はミーティングスペース、1階はソファアが設置されています。新10号館は研究棟ですが、思いのほか頻繁に



ラウンジ 3階

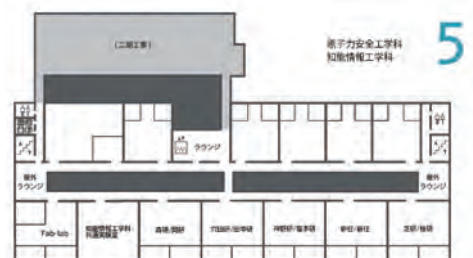
卓球をしている様子を見ることができま。エレベーターホールに流し台も設置されているため、コップを洗っているとビヨン玉が飛んでくることがあります。



ラウンジ 1階



多目的トイレ



原子力安全工学科 知能情報工学科

5

新10号館は研究棟として利用されており、知能情報工学科全研究室が5階に入居しています。他にも、都市工学科、電気電子通信工学科、機械工学科、機械システム工学科、原子力安全工学科が入居しました。

また、各フロアの両端にある屋外ラウンジにはベンチとテーブルが設置されています。利用している様子はあまり見かけませんが、お弁当を食べたりするのでしょいか？ちなみに、屋外ラウンジにも流し台が設置されていますが、5階は風が強く、流し台の水は風に流されて斜めに落ちていきます。

## 新10号館(研究棟)竣工

知能情報工学科 講師 H8卒 岡 誠

大学の建物は内廊下に各部屋の入口が並んでいる光景が一般的ですが新10号館は違います。新10号館はマンションのような外廊下になっており、各部屋の入口が屋外に直結しています。知能情報工学科の入居する5階の室内はカーペットが敷かれており、雨の日に濡れた廊下から靴で入室すると床のカーペットにもコンピュータにも良くないので、全研究室が土足

OBの方々もぜひ、新しい研究室を訪ねてみてください。

大学に直結しているため、コップを洗っているビヨン玉が飛んでくることがあります。

各部屋は学生証がカードキーになっており、登録された部屋以外には入室できません。OBの皆さんが研究室を訪ねる際には事前に連絡しておく必要があるかもしれません。オートロックなので、キーを持たずにトイレに行き、部屋から締め出される場合があります。(ちなみに、多目的トイレには『おむつ替え』スペースもあります。)

新10号館は廊下に面した壁がガラス窓になっており廊下から室内が見えます。廊下を歩いてみると、各研究室の様子がわかります。今回の研究室移転に伴い、机や椅子も新しく用意されたので、各研究室共にフレッシュな雰囲気です。

OBの方々もぜひ、新しい研究室を訪ねてみてください。

2022年夏に竣工した新10号館は、経営工学科が長らくお世話になった旧10号館の前方に一期工事として2棟建てられました。二期工事として旧10号館を取り壊した跡地に3棟目が建つ予定です。新10号館は3棟になりますが、一つの建物として利用されます。

2022年の春には新7号館、2022年の夏には新10号館が竣工しました。

厳禁になりました。

学生部屋との間仕切りもガラス張りです。このガラス面に目隠しをしてはいけぬルールなので、学生も教員もお互いが良く見える状態で、程よい緊張感があります。



相談役就任



環境学部  
環境経営システム学科  
准教授  
大久保 寛 基

先生と強く連携をさせていただいたことは、私にとって、大きな財産になっております。また、経友会の皆様が学生を思い、様々な支援をいただいていることは、大学で研究教育活動をする上で、とても大きな力になっていると、常々、感じております。

環境学部環境経営システム学科の大久保寛基です。この度、経友会相談役に就任することになりました。微力ながら、経友会の発展に貢献ができればと思っております。私は、2012年に、知識工学部経営システム工学科に着任し、生産管理や生産システムに関する教育研究を行ってまいりました。そして、経営システム工学科から知能情報工学科に名称変更する際、私も経営システム工学科を卒業し、横浜キャンパスの環境経営システム学科へ異動しました。現在は、環境経営システム学科において、「経営工学研究室」と称しながら、生産システム設計、サービスマネジメント、さらには、製造業におけるカーボンニュートラルに向けた教育研究を行っております。

私は、東京都市大学（武蔵工業大学）

経営工学科の卒業生ではないのですが、昔から、とても縁と愛着を感じる学科でした。私が、他大学の博士課程に在学し研究活動を始めたころ、学会活動などにおいて、俵信彦先生にとっても気にかけてもらいました。また、東京都市大学への着任の際には、増井忠幸先生、横山真一郎先生に、大変、お世話になりました。また、着任後は、同じ専門分野の細野泰彦



世代のマネジメント技術、つまり、次世代の経営工学の教育研究を追究してまいりたいと考えています。そのためには、大学OB・OGである経友会の皆様のご支援が不可欠です。横浜キャンパスの学部ではありますが、都市大に、久しぶりに生まれる新学部にご支援をいただけると幸いです。ぜひ、これからもよろしく願います。

武蔵工業会館取締役にあたり



経友会副会長  
S55卒  
金子 正 樹

「東京都市大学 校友会館 自由が丘クラブ」は東急東横線、大井町線の自由が丘駅から約徒歩7分です。

駅前ロータリーから路地を過ぎたバス通りを左方向（環八方面）に進み奥沢6丁目交差点を過ぎ左側のビル二階に会議室二室とサロンが用意され、校友会員（卒業生・学生・教職員）は部屋代無料で使用できます。コロナ感染予防のため飲食を制限してりましたが2023年1月

から飲食可能となりました。感染対策（体温測定・手指消毒等）を整備して、各種のお弁当、ケータリング等も再開いたしますので同窓のご友人との親睦に利用してみたいかがでしょうか。経友会もコロナ以前は会議や親睦会等で利用しています。今後も総会等で利用する予定です。今後は参加いただけるとうれしいです。一般の飲食店とは違う落ち着いた雰囲気での親睦はお勧めです。

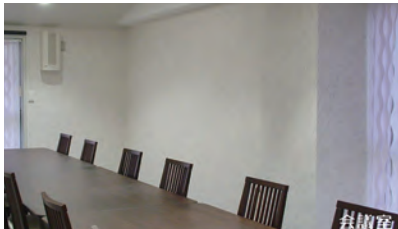
施設詳細、利用予約、利用相談等はホームページでご確認いただければと思います。次にURLと、スマートホンからア

アクセスするためのQRコードを掲載しました。気楽にお声掛けください。よろしくお願いたします。

自由が丘クラブ  
東京都市大学校友会館  
<https://jiyugaoka.club/>



会議室



サロン

計 報

兼子 毅 講師 六十一歳

令和四年十月九日逝去

加藤 満助 教授 八十四歳

令和四年三月四日逝去

ここに謹んでお知らせし、ご冥福をお祈りいたします。

全国で活躍する経友会会員



北海道支部長  
S51卒  
藤田 勝 康

昭和51年経営工学科卒の藤田勝康です。東京都市大学校友会北海道支部長を2021年度(令和3年度)から務めております。就任する前からコロナ禍が続き、支部は全く活動していません。ですので、北海道支部の概要を中心に述べさせていただきます。さらに、経営工学科卒業生との(個人的な)交流についても触れさせていただきます。



一番の問題点は、北海道にもどって就職する卒業生が少ないことです。そもそも北海道出身の学生が少なくなっています。私の時代は札幌で入学試験がありましたが、現在は行われていません。これも理由の一つだと思われます。最近新規の北海道支部会員(卒業生)は毎年5名程度と以前の半分以下に減っています。北海道支部では、支部の会員を増やすために、現役の学生と本州からUターンを希望する方に、就職支援をしたいと考えています。現役の学生やOBが帰省した際に、企業やOBを紹介する窓口にならないかを検討しています。

北海道支部は、1949年(昭和24年)10月設立(当時は武蔵工業会)、1999年50周年、2019年70周年を迎えました。50周年には「50周年の歩み」を発行しております。この冊子は42ページに及び充実した内容で、昭和20年代の校舎の状況、支部設立の経緯、OBが活躍する北海道の企業など、支部の創成期の生き生きとした様子が伝わってきます。

北海道支部は総勢552名で構成されています(2019年)。その内訳は、機械・建築・土木・電気が百名程度、経営30名程度、環境・情報・その他10数名、見砂会(2015年参加)95名となっています。年齢構成は、六十代〜八十代が70%を占め、三十代〜五十代がそれぞれ50名程度、二十代が20名とかなりの高齢化が進んでいます。



が、新しい学科を卒業した若い卒業生との接点を探っていきたいと思っています。

経営工学科のOBとの交流ですが、卒業後数年に一度10名程度で東京で懇親会を開催し、還暦は北海道で祝いました。昨年古希になりましたので、コロナの収束後にはまた集う予定です。経営工学科は学科も変更になり、OBは増えませんが、新しい学科を卒業した若い卒業生との接点を探っていきたいと思っています。

エビ長会への思い



経友会幹事  
R1卒  
有馬 秀 太

2019年に経営システム工学科を卒業した有馬秀太です。学生時代は経工会(現知奏会)の会長を務めました。卒業後はマレリ株式会社に入社しIEとして工場の生産性向上に努めています。さて、表題のエビ長会についてですが2021年頃に発足して今年で3年目を迎える団体となりました。

経友会が全てのOBを含めた縦横の關係の継続、構築を目標にしているのに対してエビ長会はより現役世代と若手OB繋がりによりフォーカスした団体です。

メンバーは現役学生十若手OB十経友会役員と言った構成になっております。

活動内容は就活の体験談のフィードバック、若手OBの職務内容の紹介、社会問題をテーマにしたディスカッションなどを中心として活動しており、それぞれが与えられたテーマに対して自分の意見を共有しながら議論する場となっています。



思い返せば、エビ長会の開催は海老沼さんからの会の開催に関する一通の提案メールが始まりでした。それまでも、何度かOBとして学生の前でお話しさせていただく機会もありましたが、開催前は「学生が気乗りしないのではないか?」「学科名の変更もありこれまでの学生と毛色も違うはずなので話が噛み合わないのではないか?」などの不安もありました。

しかし、いざ発足してみると私の不安をよそに会は盛り上がりを見せ活発な意見が練り広げられる場となり今となってはすっかり私にとっても楽しみな場となりました。

また、エビ長会に参加をする事で学生ならではのフレッシュな視点でのフィードバックや海老沼さんを始めとした経友会役員の意見を聞くことは私の知見を深める事にもなりその点でも大変充実しております。

今後の展望については、縦の繋がりを強化していくと共に下の世代を含めた横の繋がりの発展も視野に活動していく予定です。

また、OBから学生への知見共有という従来の形だけでなく、学生からOBへの知見共有といった関係性の構築も面白いのではないかと考えています。